



右より
 草野 聖地議員
 葉月 陽 議員
 竹内 照夫議員
 竹内 基二議員
 寺田 英幸議員
 福永 英晶議員
 川口 正徳議員

幹事長 竹内 照夫



秋冷の候、市民の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、8月28日に開会しました8月通常会議においては、28件の議案を審査いたしました。今回可決した補正予算には、国庫補助金等を活用した高齢者施設等の防災・減災対策に係る整備費補助や保育所等のICT化など、市民の皆様にご安心・安全に過ごしていただくための取り組みが含まれています。

野の取組がより一層、横断的に相乗的に展開されるよう「夢があふれるまち大津」の実現に向けて着実に取り組まれたことを評価しました。

8月27日には福永英晶議員が新たに湖誠会に加わりました。介護や障害福祉の分野において豊富な経験を有しており、会派の新たな「力」として期待しています。

令和7年度「政策要望書」を市長に提出

令和6年10月21日(月)、令和7年度予算編成にあたり、52項目に及ぶ湖誠会としての「政策要望書」を市長に提出しました。

市民の皆様が安心・安全に住み続けることができる、「夢があふれるまち大津」を目指し、今後とも執行部と共に全力で取り組んでまいります。



行政視察報告

10月9日・10日に2つの項目について先進地視察を実施しました。それぞれの内容は、次の通りです。

くまもと半導体産業推進ビジョンについて(熊本県)

熊本県の半導体産業の歴史、地理的優位性、経済波及効果、企業の集積状況、そして今後の産業振興施策について詳細に説明を受けました。

特に、半導体サプライチェーンの強靱化、人材育成、イノベーションエコシステムの構築が重要な課題とされ、熊本大学との連携やTSMC関連企業JASMの工場設立、環境保全、交通渋滞解消、外国人材との共生について積極的に取り組んでおられるとのことでした。



また、地域産業創生交付金の活用もされ、熊本大学との連携も強化されているとのことでした。



備後圏域連携中枢都市圏の取り組みについて(広島県福山市)

人口減少が避けられない中、地方都市を効率的に運営するためには、近隣市町との連携が重要です。政府としても連携中枢都市圏構想を提示するなど、その取り組みを支援しています。

今回、視察に訪れた福山市は、10年以上この取り組みを進めてこられ、現在では近隣7市2町となっております。

「経済」「都市機能」「住民サービス」の3つの柱ごとに取り組みられ、酒類製造特区を活用したワインプロジェクトや、古くからノウハウのあるデニムプロジェクト、子ども発達支援センターの共同運営、医療連携の強化などで確実に成果を出されています。

大津市としても府県を超えた連携も踏まえて、近隣市町との協業などを検討するべきと感じました。

令和5年度大津市決算の概要

8月通常議会において、一般会計を含む12会計の令和5年度決算について審査し、全ての決算議案について認定しました。

総括

- 歳入総額、歳出総額ともに前年度を下回り、決算規模は縮小しました。
- 実質収支、単年度収支はいずれも前年度に比べて減少しました。

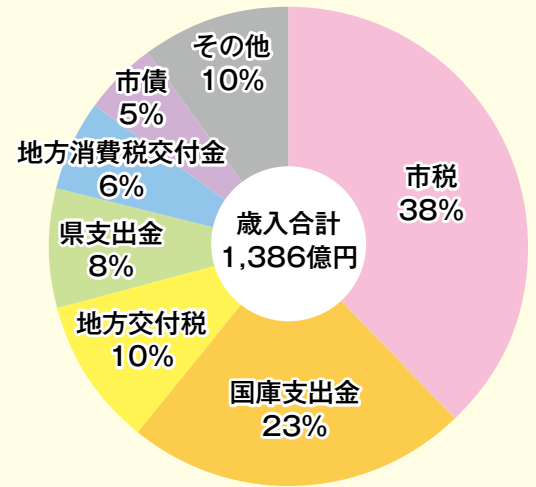
歳入

- 市税は、対前年度比で8.2億円の減収となりました。 (▲1.5%)
- 国庫支出金は、対前年度比で17.6億円の減となりました。 (▲5.1%)
- 地方交付税は対前年度比で9.0億円の増となりました。 (+6.7%)

歳出

- 扶助費等の義務的経費は、対前年度比で3.5億円の増となりました。 (+0.5%)
- 一般行政経費は、対前年度比で4.5億円の減となりました。 (▲1.0%)
- 投資的経費は、対前年度比18.3億円の減となりました。 (▲14.1%)

一般会計「歳入」決算額の内訳

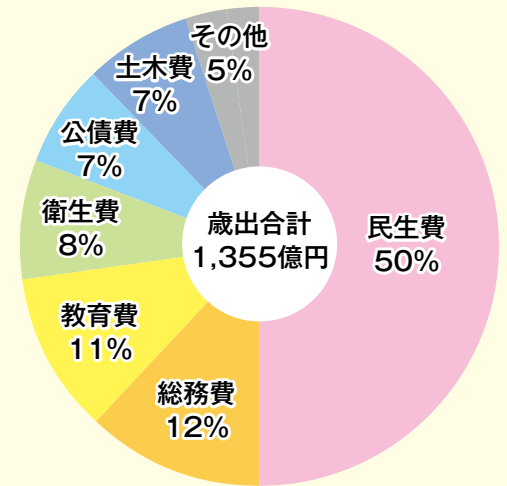


一般会計決算額

(単位：千円)

	令和5年度	令和4年度	R05/R04
歳入	138,637,822	141,913,599	97.7%
歳出	135,468,168	137,393,333	98.6%
差引(形式収支)	3,169,654	4,520,266	70.1%
実質収支	2,576,456	3,692,557	69.8%
単年度収支	▲1,116,101	▲940,164	-
実質単年度収支	▲333,434	1,377,650	-

一般会計「歳出」決算額の内訳



実質収支：形式収支から翌年度に繰り越すべき財源を控除した額
 単年度収支：当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額
 実質単年度収支：単年度収支に実質的な黒字を加え、実質的な赤字を差し引いた額

8月通常会議一般質問

質問、答弁は一部抜粋です。詳しくは大津市議会ホームページをご覧ください。※質問順に掲載しています。



葉月 陽 議員

子ども・若者の意見を反映させる取り組みについて

Q 子ども・若者等の意見を聴取し、反映させるための取り組みである「学校夢づくりプロジェクト」の課題や今年度からの連携型について伺う。

A この取り組みは、子どもたちの思いを中心に、学校と地域が一体となって進めることで、学校や地域に活力を与えるきっかけとなった。持続可能な事業にするためには、特定の教員に役割が集中しないよう、学校内でのコミュニケーションを図り、組織全体で進めることが重要である。地域連携も大切にしており、学校と地域が共に進めることが取り組みを持続させる原動力になる。今年度は8校から6つの企画があり、地域の大学や商店街、観光協会などと連携し、スポーツ体験やウォークラリー、観光マップ作成などで、子どもたちの学びと地域活性化を期待している。

※他に1項目の質問あり。



草野 聖地 議員

災害対策における避難所について

Q ホテルなどの民間施設や研修施設などを避難所として備えることについて伺う。

A 老人福祉施設や看護学校などの複数の民間事業者と協定を締結し、発災時に配慮の必要な市民の避難に備えている。また、滋賀県にお

いて、滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合との間で締結している災害時の宿泊施設等の提供に関する協定により、県を経由して200余りの組合員に対して避難所の提供を求めることで、市内のみならず、広域での避難にも活用できる体制を整えている。今後も引き続き、避難先の拡充に取り組んでいく。

※他に1項目の質問あり。



川口 正徳 議員

書かない窓口について

Q 全国の先進自治体では、これまで市民が記入していた各種証明書の請求書や住民異動届等について、その一部を「書かない」ようにすることで、手続きがより簡単になる「書かない窓口」が進められている。本市では「大津市DX戦略」に基づき、市民生活の向上に取り組んでおられるが、市民と接する機会の多い部署における「書かない窓口」の現状と今後の取り組みについて伺う。

A 今年度、「書かない窓口」に取り組まれている埼玉県深谷市や静岡県浜松市などの先進地を視察するとともに、窓口サービスの体験調査を実施した。

その結果、手続きごとに氏名や住所を何度も記入することに対する負担感の軽減や窓口での待ち時間の短縮などの必要性を認識したところである。

今後、現状の課題も踏まえつつ、「書かない窓口」の導入に向けて、業務の見直しなどを進めていく。

※他に3項目の質問あり。